

第4回高砂市総合計画審議会（全体会）
議事録【要旨】

開催日時	平成22年1月22日（金） 午後2時00分～午後4時00分
開催場所	南庁舎5階大会議室
会長	近藤委員
出席者	近藤委員、谷口委員、田端委員、赤木委員、足立委員、稲田委員 伊保委員、大上委員、柿木委員、喜始委員、北野委員、國分委員 中井委員、中野委員、前田委員、松本委員、森本委員、山本委員 米田委員、石原委員、紙谷委員、坂口委員、砂川委員、辻委員 渡邊委員、宮野委員（代理 米澤）、玉田委員（代理 山田）（27名）
欠席者	伊藤委員、山名委員、高岡委員（3名）
議事	・第4次高砂市総合計画基本構想（素案）について
資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第4次高砂市総合計画基本構想（素案） 2. 第4次高砂市総合計画基本構想案骨子・・・・・・・・・・・・（資料1） 3. 基本構想（素案）における施策の大綱 比較表・・・・・・・・（資料2） 4. 推計人口と目標人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料3） 5. 部会審議における主要課題のまとめ・・・・・・・・・・・・（資料4） 6. 総合計画「まちづくり（職員）提案」まとめ・・・・・・・・（資料5） 7. 高砂市総合計画審議会の今後のスケジュール（案）・・・・（資料6） 8. 高砂市民・事業所アンケート報告書（素案） 9. 中学生アンケート調査報告書（素案）

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>1. 開 会</p> <p>ただいまより第4回高砂市総合計画審議会を開催する。</p>
会長	<p>2. あいさつ</p> <p>皆さん、こんにちは。高砂市総合計画審議会第4回全体会のご案内を申し上げましたところ、大変お忙しい中にも関わりませず、ご出席を賜わりましてありがとうございます。</p> <p>昨年11月の審議会の全体会では、高砂市の課題のまとめといたしまして、3つの部会、第1部会、総務、第2部会、建設・経済、第3部会、文教厚生という3つの部会で審議をしていただいた内容を各部会長さまから発表をお願いいたしました。そこで、いろいろ出ましたご意見を踏まえて、事務局が第4次総合計画の基本構想（素案）をまとめ、事前に皆さんにご送付させていただきました。</p> <p>本日はこの素案についてご審議をいただくという風に考えております。皆さま方のご協力の下、進めて参りたいと思います。最後までひとつよろしくお願い申し上げます。</p>
副市長	<p>本日は、大変お忙しい中、総合計画審議会にご出席をいただきましてどうもありがとうございます。皆さま方には平素から市政の推進につきまして大変ご協力をいただいております。厚くお礼を申し上げます。</p> <p>この審議会も、いよいよ今後10年間の施策についてご協議をいただく段階になって参りました。本日は、第4次総合計画の基本構想の素案をご提示させていただいております。また、2月19日には、より具体的な内容の基本計画素案についてご提示をさせていただく予定をいたしております。委員の皆さまには熱心なご議論をいただきまして、より良い計画を策定して参りたいという風に考えておりますので、本日も忌憚のない、活発なご意見をいただきますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが開会のご挨拶とさせていただきます。本日、どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
事務局	<p>本日の会議は、出席27名、欠席者3名。</p> <p>審議会条例第5条第3項の規定により、過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告する。</p>

事務局	<p>当審議会の公開について、高砂市総合計画審議会の運営に関する規程に基づき公開している。本日の傍聴希望者は7名。</p> <p>○配付資料確認</p> <p>副市長は所用のため、退席する。</p> <p>今後の議事進行は会長とする。</p>
	<p>3. 議 事</p>
会長	<p>今日は全体会の後、小委員会を予定している。まず事務局から素案について説明願う。その後、質疑いただくが、素案についてはこれから数回審議する機会もあるため、今日はまずしっかり聞くというスタンスで望んでいただきたい。</p>
事務局	<p>○第4次高砂市総合計画基本構想（素案）について説明</p> <p>アンケートについては、最終報告書の素案であるので、意見があれば1月末、までに事務局に連絡してほしい。</p>
会長	<p>第2部について、もう少し深く説明していただきたい。</p>
事務局	<p>○素案について補足説明 （基本理念について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全・安心が大事であるが、市民の暮らしを支えるベースが「衣・食・住・遊・知・休」であり、その部分の市民のニーズを捉えて施策を進める。その中で、行政の役割は市民の安全安心を第一に、市民の暮らしを守ることである。市民生活に密着した行政施策を展開していくことが大きな要因である。 ・ 市民の日常生活において、福祉や医療も含めた「健康」、生活環境や都市基盤の整備、地球規模の環境問題の「環境」、人々の交流、教育、文化として、文化は人をつくる。人が文化をつくり出す。という「文化」この3つのキーワードをもとにまちづくりを進めていく。 ・ もの重視の時代から心の豊かさの時代に移り、真の豊かさは生活文化と地域に根ざした地域文化である。時代とともに変っていく人々の生活の中から生まれるもの（文化）がある。 <p>目標人口について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が減少していくなか、人口減少をいかに抑えるか、という施策を展開する。次世代育成支援行動計画を策定し、計画を進める。企業立地法

	<p>に基づく基本計画により、新規雇用者を見込む。など様々な施策を展開し、95,000人を下回らないように考えている。</p> <p>土地利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回はゾーン分けを行った。個々の詳しい部分については、都市計画マスタープランが現在策定中であるが、そこで示していく。 <p>施策の大綱について（P21～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1章、誰もがいきいきと暮らせる健康福祉都市について、生活面、健康面は市民生活の基盤部分の安全・安心の意味もあり、第1章に挙げた。 ・第2章、ふるさとを愛し思いやりとたくましが育つ教育文化都市について、人権尊重の理念に基づき、次世代の子どもたちが社会の中でどのように生きていくかと謳っている。「教育基本法」の改正があり、大幅な変更、構成を変えている。 ・第3章 地域の暮らしを守る安全安心都市について、安全安心な都市基盤の部分と、食の安全安心を謳っている。 ・第4章 自然と調和した環境共生都市について、前回の生活環境、都市環境の部分を含めている。コンパクトなまちづくり、市域における利便性など住みやすい生活環境づくり、地球環境規模の環境問題を謳っている。 ・第5章 未来を拓き躍動する産業交流都市について、不況の問題もあるが、人口増に結びつく施策の部分という考えもある。地産地消の推進も入れている。 ・第6章 みんなの個性あふれる市民参画都市について、前回も市民参画は謳っていたが、市民参加で止まるのではなく、市民参画にもっと持っていかなければならないということで謳っている。基本理念にもあるが、まちづくりの主役は市民一人ひとりであることを踏まえ、市民、事業者、行政の役割分担を行い、更に連携を深め、市民とともにまちづくりを行う。 ・第7章 親しみある簡素で開かれた地域経営都市について、行政運営から行政経営にシフトし、透明性があって効率的な運用をする。この部分は計画を進める上で一番大事なところである。）
<p>会長</p>	<p>いまの説明によって、今回の基本構想の形、章立てについてご理解いただけたと思う。委員の方々の基本構想に関しての意見を伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>高砂市には850億円ほどの債務超過があると聞いているが、それは解消したのか。市民病院の繰入金毎月か毎年か分からないが、5億ほどあるとも聞いている。そういった市民病院の経営のこと、高砂市の債務超過のこと、それらが解消しているかどうかを教えてほしい。</p>

事務局	地方債の借入れに対する償還残がある。20年度決算では、一般会計で約270億円程である。20年度決算については、一般会計は黒字であった。市債の償還はあるが、単年度決算においては黒字である。
委員	夕張の次は高砂とかいう風評が立っていたが、それは市民の杞憂に過ぎないのか。
事務局	「地方公共団体財政健全化法」が20年度から施行され、標準財政規模に伴い、一般会計の赤字か黒字かによって、比率がでる。高砂市は黒字であるので、赤字比率は当然出ていない。20年度決算においては、全体の連結も黒字のため、数字的に赤字はなかった。現在の高砂市の状況は、実質公債費比率は健全化判断比率の基準内である。
委員	850億円の債務があるという話は単なる噂で、実際はなかったということか。これは非常に大事なことである。市の経済情勢によって高砂市のビジョンが大きく変わってくる。基本計画のビジョンに高砂市の経済情勢を盛り込むべきと考える。
事務局	地方債の償還残額は800億円ほどあるが、現在、その償還を上回らない額の起債の発行を行っている。年間10億円ずつ償還している。順次解消していきたい。
委員	いくらずつ返しているから大丈夫とはいえない。残額をはっきり教えてほしい。
事務局	一般会計で270億円。全会計、合計で約800億円である。
委員	少なくとも基本理念のビジョンで、現在の高砂市の経済状態に触れておくべきだと考える。これらの計画は、高砂市民がその情報を共有して、経済的な努力を重ねたうえで実現可能なものとなるだろう。
会長	書くとしたらどの辺りがよいか。
委員	基本理念の最初に書くべきである。高砂市の経済情勢が非常に厳しい状況であることを分かっているながら、それに触れないというのは、委員として市民に対して申し訳ない。経済状況を把握した上で、希望を持ちつつ計画実現に向けて努力しましょうと書くべきだと考える。

副会長	<p>事実を述べるという観点からいけば、基本構想のところに入れるよりも、経済的社会特性の中の人口と産業の所がよいと思う。ここに財政の部分をかちっと入れ、認識するという形がいいのではないか。</p> <p>特別会計の話だが、事業をする上での借入金は当然発生するものである。これは事業に使うための借金であり、認められている。ただ、財政の借金には赤字を埋めるための借金もあり、これはよくない。高砂市の場合は、事業をするための借金である。これが特別会計のかなりの部分を占めており、事業をしながら返している。ただ、これは人口増を前提とした借金であるため、人口減少の際にはどうなるかという心配はある。</p>
委員	<p>高砂市のスケールで850億というのは余りにも大きすぎる。破綻するとまでは思わないが、市民に夢だけを教えておいて、結局、借金を背負ったままで、その日暮らしではよくない。やはり子や孫に借金を残したくない。高砂市を健全にしていくというのがビジョンだと思う。それで、そういったことを盛り込んでほしいと思っている。</p>
会長	<p>承知した。第二部基本構想の前段の社会状況の変化というところで、市民セクター、産業セクターには書いてあるが、行政のセクターについての部分で触れていただきたい。</p>
委員	<p>冒頭の基本理念と将来像の中に、一言でも二言でもいいので書いてほしい。この計画については、財政状況はきちんと踏まえているということを書いてほしい。そうでないと市民に申し訳が立たない。</p>
会長	<p>そのように検討する。</p>
委員	<p>資料4の3ページ、第1章第2節、地域医療について、「高砂市民病院はオールマイティーである必要はなく」とされているくだりについて。加古川市民病院と神鋼加古川病院との連携が新聞報道された。それ以前に、高砂市民病院と加古川市民病院の統合の話が持ち上がっていたと記憶している。現在の進行状況について説明願いたい。</p> <p>基本構想の中に、市民病院の連携とあるが、今後、高砂の病院管理に関して、地域とどのように連携していく構想を持っているのか説明願いたい。</p>
事務局	<p>高砂市民病院はオールマイティーである必要はないという意見は部会において出された意見である。市民病院として広域的な連携の必要性を感じている。基本構想の素案、23ページ、2. 地域医療には、広域的な観点からの医療体制の整備にも努めると謳っている。連携の具体的な内容については、次回お示しする基本計画の中で、東播、東播磨圏内での役割分担の明確化ということ</p>

事務局	<p>も謳おうと考えている。</p> <p>若干補足すると、新聞報道では、去年8月に加古川市民病院より相談があった時に、高砂市が役割分担で折り合わずに断ったというような表現になっていた。8月の段階では、今の加古川市民病院の場所に建替えて、神鋼加古川病院と統合して急性期型医療をどんどん進めていくと。その中で高砂市民病院が療養型として参加してほしいという提案だった。療養型となると、先生方にとっては勉強ならず、新しく専門医を取る道も閉ざされるため、先生方の流出につながり高砂市民病院は破綻しかねない。協議を重ねた結果、その段階ではとても受け入れられる話ではないということで意見がまとまった。逆に、高砂市民病院の経営改善を進めるにあたって一致団結しようと結束が固まることとなった。</p> <p>高砂市民病院内の意見としては、今回は過剰にリアクションするべきではないということでまとまっている。とはいえ、600床という病院が現実にできた際にどうなるかは考えていかねばならない。</p> <p>加古川市民病院と神鋼加古川病院の統合がこのまま進むのであれば、高砂市民病院は急性期だけではなく、亜急性も取り入れる必要があるだろう。</p> <p>ただ、やはり高砂市民病院は地域の病院としての役割もあり、存続しなければならぬということを院内で議論している。</p>
委員	<p>財政状況に全く触れず、夢ばかり語るのはよくないという意見に全く同感である。まず財政状況を申し述べて、市民に辛抱してもらふ必要性を説くべきだ。</p> <p>また章立てが3次とほとんど同じである。まず財政問題を先に示して、そのあとの章立ては、社会変化に応じて見直すべきだと考える。</p> <p>次に事務局に質問だが、基本構想の素案に対して、施策が抽象的な表現になっている。先ほどの病院の問題、図書館の問題。この2つについて具体的な施策がまったく示されていない。それはこの次の段階で書くつもりなのか。基本構想の施策編といったものをつくるのか。</p>
事務局	<p>財政については現状を示す。辛抱するということについては、理念の謳い方など何らかの形で考えていく。</p> <p>章立てが3次計画とほとんど一緒だということに関しては、行政の進める施策はよほどのことがない限り大きく変わることはない。ただ、第7章の財政再建については、どこに持っていくか検討する。</p> <p>主要施策の内容が非常に抽象的であるということについては、次の基本計画で示す予定ではある。図書館建設を何年後に計画するといった具体的な内容を示すことができるかどうかはわからないが、基本計画の中に盛り込んで行く予定である。</p>

会長	<p>市民アンケートや委員の議論によって出てきたニーズも大事ではあるが、財政の縛りもあるよという順番になるだろう。ただ、あまりにも最初から財政の縛りがあると書くのはどうかと思う。引き続き検討していきたい。</p>
委員	<p>商工会議所や観光協会では、高砂市の人口を 10 万人以上にしてまちを活性化させようという意見がある。10 万人という数は実現可能か不可能か、事務局の意見を確認したい。</p> <p>いま目標人口は 9 万 5 千人だが、10 万人となると、今の人口減少社会においては達成に非常に大きな努力が必要だろう。計画の中に具体的にその方法が示されていれば、夢、希望、きらめき、輝くといった言葉は非常にいいと思うが、それがないと掛け声だけが踊るといったことになりかねない。ただし、悲観的になって、財政が厳しく未来がないといったことばかり打ち出しても意味がないと思うので、やはり夢と希望を持って 10 年後を迎えるというような形で、将来像と中身が一致する形で計画を策定願いたい。</p> <p>10 万人というような目標を持つということは可能なか不可能なのか。この辺りのことを確認したい。</p>
事務局	<p>目標人口については市内でもいろいろ議論した。上下水道などの都市基盤は 10 万都市として整備している。目標人口は 9 万 5 千人としているが、これまで、目指すべきは 10 万都市であるとずっと言ってきた。根本に 10 万都市という基本理念はあるが、推計人口を挙げる時に 10 万と挙げてしまうと、ほかの施策にも影響が出てくる可能性もあるため、9 万 5 千人としている。</p>
委員	<p>人口が減少し、少子化社会であっても、高砂が魅力のあるまちであれば人は移り住んでくる。要は、魅力あるまちをつくろうというふうに考えるのか、考えないのかである。魅力がなければ減っていく。10 万人という目標設定をしても、不可能ならしやうがない。その辺りは、また、議論していただきたい。</p>
会長	<p>人口減少は当然進むだろう。そのなかで現状維持だけでも素晴らしいことなのに、10 万ということで少し上を狙われるのであれば、ぜひとも頑張っていたきたい。</p>
委員	<p>理念の中で人口問題というのは、財政的な面、産業の面、商業の面、いろんなところで非常に大きなポイントとなるだろう。目標人口 9 万 5 千人を維持するために、福祉施策や少子化対策などを総合的に実施するということだが、過去 10 年間の 3 千人ほどの人口減少についての分析はしたのか。もちろん少子化の問題もあるだろう。死亡も増えた。流出をした産業もあるだろう。その辺りを充分分析し、それに対応した今後 10 年間の施策の資料等があれば、基本計画と併せて見せていただき、そうしたことを基に 10 年間で 9 万 5 千人確保</p>

	<p>するための施策を進めるということを教えてほしい。</p>
会長	<p>どういう層が流出しているのかについて分析し、報告願いたい。</p>
委員	<p>先ほどの財政再建に対しての事務局の答弁の中で、単年度決算で平成 20 年度は黒字であったという説明があったと思うが、それについて再確認したい。また単年度で償還も含めて黒字であれば、基本構想、基本計画は推し進められるのではないか。</p>
事務局	<p>単年度決算、20 年度一般会計については黒字であったという答弁をさせていただいた通りである。当然、事業にあたって起債も借りているし、公債費の償還もある。それを併せた中で、決算額として、20 年度は黒字になったという回答をした。</p>
委員	<p>一般市民としては、単年度で黒字になればいいのではないのかと考える。その中で、起債も含めての償還が計画通りになされていけばよいのではないかと思うがいかがか。</p>
委員	<p>償還していく分については、市民が責任を負い、返していかなければならない。20 年、21 年は黒字になったが、翌年はどうかと考えた場合に、借金の額が非常に大きいだけに安穩としていられない。夢のある、希望のあることを書いてはいけないと言っているわけではない。ただ事実を示して、それについて市民は行政共々、子や孫の代まで残さないよう、返還に向って頑張りながら、希望と誇りのある高砂市の構想をしましようという形に持っていくべきだと思う。その前段の部分を除いていたら、これはやっぱり偽りに近いのではないかと、総合計画策定に携わった身として思う。</p> <p>やはり債務はみんなに知らしめて、みんなで努力すべきだと思う。高砂市民病院が今、よくなってきたのは、実態をみんなが知って、市民や病院が経営努力、人的努力をしてきたからである。市民自体も病院の財政状況を知ったことによって、市民病院に行く回数も増えただろう。それが大事である。現状を知った者として、それを市民に知らしめることが、計画策定に携わった私たち委員の責務ではないかなと思う。</p>
委員	<p>市民病院の場合、赤字を全て一般会計に繰り込んでいるので、赤字の状況が見えない。黒字だと市民はうまくいっていると思うだろう。きちんと借金を示して、それもわきまえながら職員一丸となって頑張らなければならない。そうしないと、単年度黒字だという意識しか残らないと思う。それでは絶対に駄目だ。その辺りのことを、しっかりやってほしい。</p>

副会長	<p>この問題は、事務局にとっては答えにくい、なかなか難しい問題である。というのは、経済状況と政府の方針にかなり翻弄されるからである。単年度黒字といっても、これはいわば貯金を取り崩しながらの黒字である。将来的にみたら貯金は尽きる。しかし、借金は変わらず返済し続けなければならない。借金は整理が終わっており、これ以上増えないが、収入が減ってくれば余裕がなくなり、借金の重さを感じられるだろう。問題はその収入の上下である。高砂市は工業都市のため、経済の状況に非常に左右されやすい。また政策によっても左右される。例えば、もし仮に消費税が上がり、その分が地方税に回ってくれば安定財政になり、また変わってくる。だから、10年後にどうなっているのかというのは、実はなかなか答えが出にくいところなのである。</p> <p>特別会計のような事業会計の場合も、成長を前提としているため、決して楽観はできない。成長しない場合についても、今後考えていかなければならない。問題は、この基本構想にどこまでそれを盛り込むかということだが、これも難しい。私は、これ読んだ時に3つのことを感じた。</p> <p>1つ目としては、先ほど、この計画は10年前の計画と項目が変わらないのではないかという話があったが、計画の意味は、この10年間で大きく変わった。10年前までは、まだ「成長」という幻想があって、配分というところに焦点が置かれた。だからこれは配分マニュアルでよかった。しかし、これからは成長が見込めず、しかも行政が全てを担えなくなっていく中では、どのような主体がどのように関わっていくかというビジョン、方向性を示さなければいけなくなっている。</p> <p>2つ目は、先ほど委員の言われた、活力をめざしていく方向なのか、それとも持続性をもっと重視すべきなのかということである。この辺りの理念がここに載っていない。だから混乱するのだろうと思う。</p> <p>3つ目は、地方分権の方向性がよく分からなくなっている。民主党政権になって変わってきているが、マニフェスト通りであれば、地方に任せられるのが教育と福祉である。市民のアンケートでも、福祉に対する関心が非常に強く、やるべきだという意見が多い。そうしたことを踏まえながら、理念を打ち出す必要がある。</p> <p>もう分配マニュアルではないということを念頭に置き、よく練って、どういう方向性を出すのかということを経験した方がよい。</p>
会長	<p>今のご意見は、腑に落ちる。この基本構想については、まだ3回ほど議論の場があるので、一気に書き換えるというよりも、ある程度合意が取れた段階で書き直したいと思っている。</p>
委員	<p>基本理念のところ、経営の経ぐらいの文字ぐらいは盛り込んでほしいと考えている。</p> <p>また、14ページにキャッチフレーズの例が挙げられているが、市長の思っ</p>

<p>会長</p>	<p>いるキャッチフレーズ、もしくは目標をお示しただければ、市長はこんな考えをお持ちなのかというところからスタートができたのではないと思う。それに沿って三つの基本理念がつくりあげられたのだろうと思っていたが、どうも逆のような発想しか聞こえてこない。10年後までの流れの中で、こういう目標を持ちますと。その中で基本理念はこうあるべきだから、この3つの言葉がキーワードになるのだという説明がほしかった。それに併せて、足りないと思われる文言を補う、例えば、行政のNPOのような経営理念といった文言を入れてはどうかといった意見交換のほうがよかったのではないかと感じた。是非とも次回には市長の思うところ、それから行政、市民が思っている部分を踏まえて、10年後の将来像に向けて、実体的な経営といった部分も含めて、キーワードを見直しながら説明いただきたい。</p> <p>私も全く同意見である。前回の全体会の時に、市長のメッセージをプリントして配っていただいた。事務局においては、もう一度あの文面を参考にして、市長の思いが伝わるようなものを、いくつか候補を考えていただきたい</p> <p>それでは、一旦、事務局にお返しする。</p>
<p>事務局</p>	<p>4. その他</p> <p>○今後のスケジュールについて説明。</p>
<p>委員</p>	<p>素案は変わらないのか。今日の意見交換会は、素案を校正するための意見交換会ではなかったか。</p>
<p>事務局</p>	<p>基本構想素案については、これから修正していく。</p> <p>5. 閉 会</p>
<p>会長</p>	<p>本日は、長時間にわたるご審議ありがとうございました。また来月、よろしくお願ひ申し上げます。どうもありがとうございました。</p>